

変化組織による結城紬帯地の開発

支援先

結城紬新商品開発委員会

【開発の背景】

織物は、たて糸とよこ糸を上下に交錯させて布になっており、その交錯の状況を「織物組織」といいます。織物組織は、たて糸とよこ糸が交互に交錯した「平織」に加え、「綾織」「朱子織」が基本とされ、それ以外の織物組織は「変化組織」と呼ばれています。

結城紬は、織機機構や産地規格、生地品質の安定性から、伝統的に平織であり、織物のデザインは、色系の配色による縞や格子、くずし柄、また糸を部分的に染め分けた縞柄などで表現し、商品展開を図ってきました。しかし近年、結城紬の愛好者に対し、従来の製品に加えて、新規性をPRできる商品開発が課題となっていたことから、今回、産地の要望を受け、織物組織で柄をデザインする「変化組織による結城紬帯地」の開発支援を行いました。

【開発の経緯・支援内容】

「変化組織による結城紬帯地」の開発にあたり、当所では①生産者向けの織物組織の勉強会講師、②手紬糸での製織、企業の織機設備状況を考慮した織物組織図、織り方図の設計、③織物シミュレーション及び織物サンプル作製、④企業での製品試作時の織機調整などを担当し、支援しました。



図 1 開発支援の流れ

(左から 勉強会 織物サンプル作製 製品試作用織物設計・織物シミュレーション 製品試作支援)

【今後の展開】

今回作製した試作製品（図 2）は、消費者や取引先での意向調査のため、各結城紬の販売会やイベントで展示する予定となっています。

当所でも引き続き、製品化に向け、品質確認の支援や企業での織物組織図の展開方法などについて、要望に応じ支援していく予定です。



図 2 製品試作した結城紬帯地

基礎となった事業

平成 30 年度 試験研究指導費（調査研究）
 テーマ名「織物の組織と物性に関する調査研究」

現在の担当部門

紬技術部門	部 門 長	篠塚 雅子	TEL:0296-33-4154
	主任研究員	中野 睦子	
	嘱 託	渡邊 直子	